

エグゼクティブサマリー

～獲得免疫の健全化によるがん等の疾患予防の実現と企業価値創出戦略について～

1 主なポイント

- ・ 獲得免疫の健全化が疾患予防を通じて収益改善に寄与する可能性がある
- ・ 日本の犬・猫では獲得免疫成熟に必要な自然抗原が不足している可能性がある
- ・ 「獲得免疫未成熟症（仮称）※」が各疾患の基礎病因である可能性がある
- ・ 腸内細菌叢の多様性低下に伴う二次リンパ器官の持続的炎症を介した、新たながん発症メカニズム「がんワープ理論」の提唱
- ・ 『全ての病は腸から』、『歯周病は万病の元』という考え方が、科学的および統計的に一定の妥当性を持つ可能性を示した

※『獲得免疫未成熟症（仮称）』は現段階で提唱段階の仮説的概念であり、正式な医学的疾患名ではありません。

2 2つの謎

- ①「嘔吐・下痢・血便」といった死因の上位にはなりにくい症状が、全年齢で上位10位以内
- ②全哺乳類はがん抑制機構を持つが、犬・猫では若齢期から著しく高率ながん発症がみられる（特にリンパ腫等）

※これらの謎を解く鍵が、「獲得免疫未成熟症（仮称）」および「がんワープ理論」である。

3 背景事象 ～地球上で最も「単調な食事と口腔ケア不足」の動物～

- ・ 単調な食事 … 先進国の犬・猫は総合栄養食に偏重。動物園で飼育される同じイヌ科・ネコ科動物は、毎日多様な食事で健康を維持している。
- ・ 口腔ケア不足 … 自然界では獲物の被毛等が歯ブラシ代わりとなる。動物園の猛獣においても口腔ケアが行われているが、家庭の犬・猫では口腔ケアが不十分。

4 統計的事実（主な例示）

①単調な食事による腸内細菌叢の多様性低下と疾患の関連性

</